

第三者評価

<p>1. 「個性や能力の伸張を図る主体的・対話的な学習の充実」についてご意見ください。</p>
<p>自由参加の研修会について学校関係者からは良い評価をいただいておりますが、自由参加にしている意図が気になります。</p>
<p>○観点別評価の実施する体制の確立から充実への移行段階であると感じる。まずは各教科で検証と授業改善へ結びつけ、その後に全体で研修することが大切かと感じる。 ○生徒一人ひとりへの個別指導やICTを活用した指導などきめ細かい指導を行い、定期的に研修会を実施していることは、学習指導の工夫・改善が進んでいると感じる。 ○研修会ではさらなる高いレベルでの工夫・改善を求めた議論に期待したい。</p>
<p>以前より貴校が学生一人一人の個性や能力を伸ばすためのサポートに定評がありますのでこのまま続けていただく事を期待しています。</p>
<p>画一的に同じ能力を目指す教育は工業社会では効率的だったと思われませんが、これからの知識社会、AIの台頭による働き方のパラダイムシフトにより、多面的な人材で、より得意で好きな仕事につく事が、すべての人にとって幸せで持続する社会をもたらすと考えています。 受け身ではなく生徒が主体的に、学びを得ていくために、個人指導、習熟の差による段階学習、また常にフィードバックするPDCAサイクルを繰り返すことで、御校が理想的な教育環境になっていると感じています。</p>
<p>観点別学習状況評価が導入され、生徒一人ひとりに応じた学習評価や主体性を重視した教育の効果が認められるようになって、この方法は大変良いものであると思われる。ただ、教員の意見からは、学校全体としてしっかりと取り組んでいるのかが課題となっているように受け取れる。目指しているところは評価されるべきであるが、その具体的な取り組みに関して教員のチームワークがなされているのか、議論が行われ、相互に共有する目標を明確にし、検討がおこなわれることが必要であると思われる。少人数教育の良さと難しさが感じられる一方、生徒に合わせた個別指導などの工夫や努力の成果がみられる。</p>
<p>2. 「生徒の多様化に対応する健康・安全教育や教育相談活動の充実」についてご意見ください。</p>
<p>学校関係者評価で、「歩み寄りの気持ちを持たなければ」という指摘の真意が気になります。教員の評価で「不登校傾向の生徒の増加」に関連して「教育相談的な立場にいる教員が学年に一人はいてほしい」とありますが、可能ならば実現できるとよいと考えます。また、教員の実践力（資質・能力）・力量の向上を図る一助として文科省「COCOLOプラン」や「生物・心理・社会モデル（BPSモデル）」を学ぶ機会があるとよいと考えます。</p>
<p>○SSWを活用して生徒や保護者への支援を行っていることや室蘭市人権擁護委員会との連携は評価できる。 ○朝の時間や教科等の時間を活用して「相手を思いやる気持ち」など豊かな心の教育の実践はしっかり行われていると感じる。 ○教育相談や家庭との連携について、さらなる充実が求められることから、学年ごとに教育相談体制や保護者との面談期間の設定などが求められる。</p>
<p>SSWの導入など時代の変化に対応した取り組みがなされていると思います。</p>
<p>特に生徒が精神面での著しい変化も伴う年代であることから、個人個人の悩み、また学習についていけない苦しみなどを共有する事は、生徒の孤立化を防ぎ、より前を向いて心豊かに学んでいける基盤を作る取り組みだと評価いたします。</p>
<p>生徒一人ひとりに真摯に向き合い、教職員が相互に連携し、生徒のかかえている問題解決に取り組んでいる様子がうかがえる。また、祈りの時間をもうけたり、心の教育や人権問題にも力を入れるなどの努力をしている点は大変評価できる。一方では、多様化する生徒の事情や保護者対応等に教員が苦勞している点が見られる。相談員の配置は必要であるが、そのための環境設備や費用の面で簡単には導入できない苦しさがあると思われる。いろいろな試みに挑戦しようとしている姿勢は読み取れる。確実な答えを生み出すことは難しいが、精いっぱい生徒に向き合う姿勢を学校全体が見せていくことに意義があると思われる。</p>
<p>3. 「育てたい資質・能力の育成」についてご意見ください。</p>
<p>ICT支援員の配置が効果を発揮することを期待します。</p>
<p>○生徒による授業評価や教員相互の授業参観を踏まえた校内研修会を行い、授業改善につなげていることは充実した指導体制が確立しているものと感じる。 ○ルーブリックの作成やICT支援員の導入など充実した指導体制が図られているものと感じる。 ○アメリカへの長期留学生、ノックスビルへの語学研修、合わせて約10名が参加しているが、留学は様々な点で生徒の力量を向上させることから、できるだけ多くの生徒を参加させたい。保護者や関係者評価で高評価である。予算の関係もあるが、在学中一度は留学する制度ができないものだろうか。</p>
<p>これからの時代英語のコミュニケーション能力が必要となり5名の生徒が交換留学をされた事は、素晴らしい事だと思います、将来人数を増やしていく事を期待しています。</p>
<p>すでにある問題を解くのではなく、どこに問題があるのか、つねに具体的な問いの能力、そして解決方法を考える一連の流れが、まさにこれからの知識社会で求められる能力であると考えています。そのために、発信力、論理構成力、表現力を磨く取り組みやカリキュラムは基盤を作る教育方法だと考えています。</p>
<p>生徒自身による授業評価や教員相互の授業参観等がなされている点は大変有意義であると思われる。主体的・対話的であると同時に互いに素直に受け入れる姿勢を養うことは大事である。また、ICT専門家を招いたり、国際理解教育に力を入れて留学や語学研修などでの成果を上げている点も評価できる。具体的なプログラムをもって教職員が一致して同じ方向に向かうことは素晴らしいと思う。今後もこのような姿勢を失わず、努力していただきたいと願う。</p>

4. 「3年間をも見通した計画的な進路指導の充実」について、お意見ください。

理事・監事・評議員の評価での「卒業生との連携」が、下の「5」とも関連して参考になると考えます。保護者の感想で「家庭内での相談を先にしてから」という指摘がありますが、当てはまる家庭とそうではない家庭があると思います。こうした事例があることを教員間で共有した上で教員（特に担任や進路担当）が進路相談に臨むことが望ましいということだと考えます。

○進学者に対しては模擬試験を活用した指導や添削中心の個別講習をするなど手厚い指導体制が確立されている。
○総合的な探究の時間については、各学年での目標や具体的な活動内容を示して系統的に展開し、思考力、判断力、表現力の育成につながっていると感じる。
○総合的な探究の時間について、特に2、3年生で活動内容の発表を共有するなど異学年交流にもつながり評価できる。

学校生活と社会生活との違いに戸惑わないように思考力、判断力、表現力を高める探究の時間は、将来に生かされると思います。

3年次になって慌てて将来や進路を考えると短絡的な考えで取り敢えずの決定になりがち。1年次から常に受験や進路を意識させる事は、日頃の学習態度や主体性に大きな違いを生み、より充実した3年間になると思われるので、素晴らしい取り組みだと思います。

1年次から3年次まで、具体的な取り組みがなされていることは大変評価できる。多様化する生徒一人ひとりに応じていくことはなかなか時間がかかり、難しいとは思いますが、地道に一人ひとりに目標をもたせ、各自のキャリア形成に道筋をつけていくことに寄り添う教育を今後も継続していただきたい。

5. 「地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実」についてご意見ください。

教員評価と、ほかの評価者による評価との乖離（相違）が気になりました。連携（実践）は充実していますが、教員（意見を述べているのが2名ですが）の満足度が低い可能性があるのが気になります。

自己評価「高砂町内会と連携した…」に関連してですが、本学では近隣の町内会役員と学生代表との意見交換会を実施して意思疎通と理解を図っています（参考までに）。

○地域における行事にボランティアとして生徒が多数参加していることは、地域を担う人材の育成につながり、他の評価においても高評価であり今後においても期待したい。
○保護者とはPTA総会と授業参観を組み合わせるなど、学校と保護者が連携する場面が設定され、学校祭でも保護者の参加しやすい雰囲気を作るなど工夫が行われている。
○本校の活動が地元紙で紹介されることは、一つには評価される活動であるためであり、地域の信頼につながりと感じる。

校務支援システムの導入により連絡手段が確立されている他地域との連携も十分に行われていると感じます。

保護者との連携は全学校が取り組んでおられると思いますが、地域との連携は室蘭特有の問題などを学習する良い機会だと思います。しかし公的な自治体や商議所に囚われず、民間の飲食店や地域のために活動しているNPOなどにも訪問や体験してみると、よりリアルな問題や経営を知ることができて、良いと思います。

地域活動はいろいろ行われており、おそらく地域の住民にも良い影響を与えているように思われる。学校と保護者との連携も大事であり、さらに室蘭市や周辺の町も巻き込んで、海星学院の存在がいかに有意義であるかをアピールすると、生徒募集にもつながっていくと思われる。今後もこのような様々な活動に期待したい。

6. 「異学年相互の交流やボランティア活動等の工夫」について、ご意見ください。

特になし

○多種多様なボランティア活動や部活動において、異学年交流が活発に行われていて自己肯定感の向上などに繋がっていると感じる。
○総合的な探究の時間の発表会については他学年を交えて実施しているが、ボランティアの活動発表会の実施を計画してもよいのではないかと感じた。実施方法は口頭による発表から冊子でも発表も考えられる。

ボランティア活動に多くの生徒が参加している事に感心いたします。

ボランティアはとても素晴らしい活動で、まさに人の役に立てることの喜びを肌で体験できる機会です。人を助けることがいかに心を豊かにするかを学べる活動は今後もぜひ継続していただきたい。また、決して押し付けにならないよう生徒の自主性をさらに生かした活動にして行って欲しいと考えます。

学年を超えて生徒が交流し、先輩から後輩へと活動をつなげることには大変意義がある。部活動やボランティア活動を通して、学習面だけではなく、よりキリスト教的な思いやりの教育に力を入れていることをアピールすることが大事であると思われる。効率や目に見える数値的な実績よりも人間性を重視した教育にさらに力をいれてほしいと思う。